



# 巨人 弥五郎どんは 隼人が

県山之口町の野正八幡神社と日南市  
鉄肥の田之上八幡神社に伝わっていま  
す。三つの弥五郎どんの顔付きは少し  
ずつ違っていますが、共通するのはい  
ずれも大男に作ってあるのと、おそろ  
しく威嚇するような目玉です。実はこ  
のように巨大な像に作られているとこ  
ろが、弥五郎どんの特徴であり、何ら  
かの意図が隠されているように思えま  
す。

岩川八幡の弥五郎どんは、

武内宿禰とか隼人族の首領だったとか、  
いろいろ説があります。『大隅町史』(昭  
和四十四年二月)にはそのことが詳し  
く考察してあります。

これに対し、山之口町の弥五郎どん  
の由来は、次のように述べています。  
(インターネットからの要約)

「養老四(七二〇)年、隼人族が反乱  
を起こした。最後まで抵抗し続けた隼  
人たちも、ついには戦死、捕虜となった。

その後、宇佐地方では作物の不作、  
疫病が流行しました。これは「隼人の  
乱でたくさんさんの反乱軍を殺した報い  
だ」として「霊を慰めるため放生会を  
すべし」と宇佐八幡も託宣した。隼人

族の首領・弥五郎をはじめ犠牲となっ  
た、たくさんさんの隼人族の御霊を恐れた  
大和朝廷は全国で放生会を行わせまし  
た。その名残の一つが、現在の八幡神  
社で行われている「弥五郎どん祭り」  
です」

実は鹿児島神社の故事が書かれた  
『鹿児島神社旧記』にも弥五郎どん祭  
りの記事があります。

御神事の抜書、八月十五日 放生大  
会の祭

景行天皇御宇、火国ノ球摩田彦、王  
命ニ伏セズ、之ヲ征ス。次ニ大隅隼人  
ヲ討チ玉ウ。此ノ隼人ヲ大人弥五郎ト  
云ウ。其ノ形、鬼ノ如シ。上井城ニ引  
籠リテ大石大木ヲ落シ、官軍ヲ悩マシ  
奉ル。之ニ依リ、天皇、大神ニ祈リ橋  
上ニテ神楽ヲ奏シ玉ヘバ、大人忽然ト  
テ出来。此ノ時はヲ討チ玉ウ。

此ノ大人世上ニ崇リ玉ウ故、日州隅  
州ノ間、弥五郎殿祭夥シ。日州摩戸野  
八幡ハ弥五郎殿也。元明帝ノ和銅元年  
ニ建立ト云ウ。又当宮ニモ大人退治大  
祭トテ有リ。野口ニ於イテ執行セシム。  
養老四年ノ隼人ノ祭、当国ニテ其ノ例  
ヲ聞カズ

この説明では、景行天皇が大隅隼人  
を討ったことになっていますが、時代  
を混同しています。

景行天皇は、その皇子、日本武尊と  
ともに、「クマソ征伐」を行ったこと

が『古事記』『日本書紀』に語られて  
います。

ともあれ『神社旧記』には、大隅隼  
人は大人弥五郎というところあり、その形  
は鬼のようだと書かれています。さら  
に国分の上井城に立て籠もって大石大  
木を投げ落として官軍を悩ましたとあ  
ります。さながら力強い勇者の姿を暗  
示しているかのような書きぶりです。

注目すべきは、当宮にも大人退治の  
大祭というのがあり、国分の野口で祭  
りが取り行われています、という部分。  
野口に枝宮神社というのがあります。  
むかし日本武尊がクマソを討ち、その  
四肢を埋め祭った所と伝えられます。

ここが鹿児島神社の大人退治の祭りの  
場所であったのでしょうか。クマソは  
政府軍に殺された隼人族のことではな  
いでしょうか。祭りの様子が書いてな  
いのが残念です。巨人の人形が登場し  
たのかも判りません。こちらが大人弥  
五郎のルーツであるような気がするの  
ですが。

隼人町小田西には、大人形、大人の  
姓を名乗る家がありました。この家の  
人は我が祖先は、岩川の弥五郎どんと  
伝えて、八幡にお参りしていたとい  
うことです。

身近な所に古代の謎がまだまだ残っ  
ていて興味が尽きません。

文責 藤